

「誰でもプロフェッショナル」

異業種のクリエイターに建設業の課題を抽出し、解決策を示していただく「ミライのケンセツゲンバ」。第1回は日野自動車さんをお願いしました。



建設業の未来を別の視点で考え直していただいた日野自動車の皆さん。日建連へのプレゼンは、「建設業界には新しい総称やキーワードが必要」とのフレーズから始まりました。20年後のケンセツゲンバが目指すべき姿は「新3K=きれいな、快適、カッコいい!」でした。

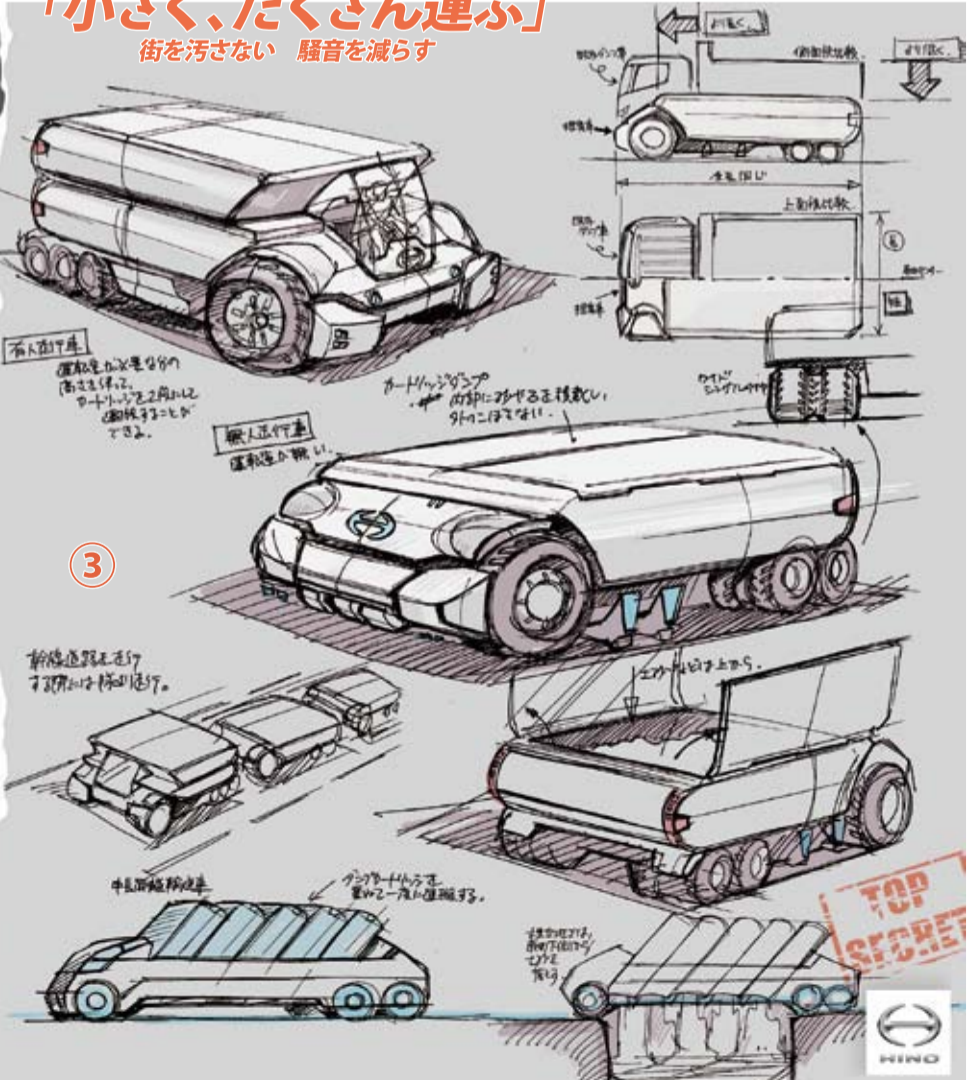


「自分という小さなカラダで、都市という大きな物体を作り出す快感を、建設現場で働く人たちに実感してもらいたい」との想いから、クリエイターの花澤さんが生み出してくださった「ミライのケンセツゲンバ」の車や周辺機器。これらは現在の建設業が抱える課題そのものであり、それを克服するためのキーワードに沿ってデザインされています。それがこちら→



「小さく、たくさん運ぶ」

街を汚さない 騒音を減らす

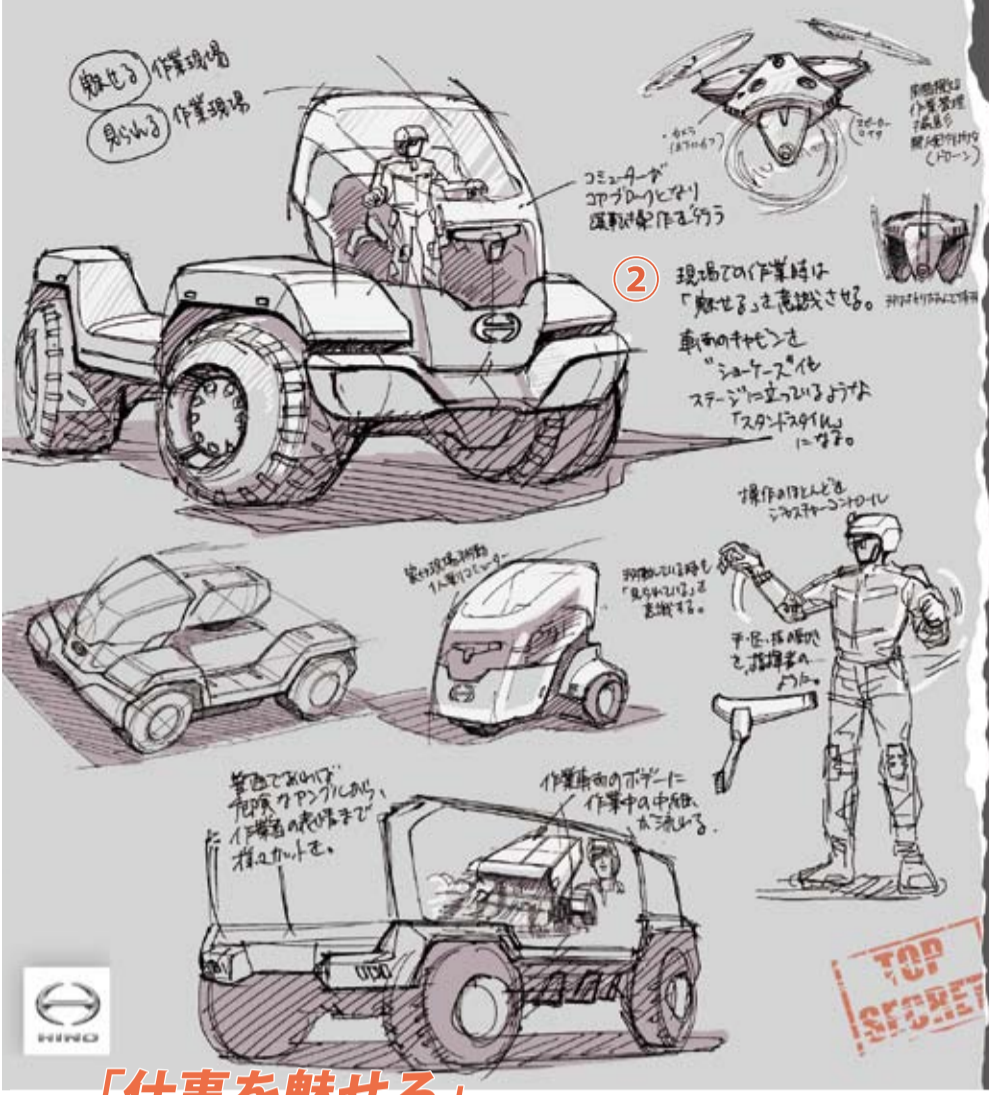


③

コラボ企画
日野自動車
日建連

ミライのケンセツゲンバ

20年後のダンプは？



「仕事を魅せる」

建設現場の安全性および効率性をさらに高めるために、「誰でもプロフェッショナル」になれる工夫が必要です。花澤さんは車を超えて、「ヘルメット+ヘッドマウントディスプレイ」や作業服、完全会話式インターフェースの作業補助ロボットまで提案してくれました(①)。

「仕事を魅せる」車はキャビンが「お立ち台」。オペレーターさんは非接触式インターフェースを通じてダンスを踊るように車を操作するのだとか(②)。確かにこれだと、服装や作業に気を配りますね。

「小さく、たくさん運ぶ」ことは都市部のリニューアルが増加する中で重要な視点。無人行列走行もできる「カートリッジ型ダンプ」は、走行中も土砂がこぼれ粉じんが飛散するのを最小限にし、土砂排出時の騒音も和らげます(③)。

「抱えて運ぶ」は、繊細で壊れやすい建築部材から大型長大の土木部材まで対応する搬送車(④)。ゆりかごの赤ちゃんのごとく確実に運びます。画期的なのは駐車時のスペースを取らない工夫(⑤)。業務時間外でも街に極力迷惑をかけないカタチです。

今回のクリエイター



デザイン部長
松山 耕輔 さん



商品企画部
トラック企画室室長
関口 裕治 さん

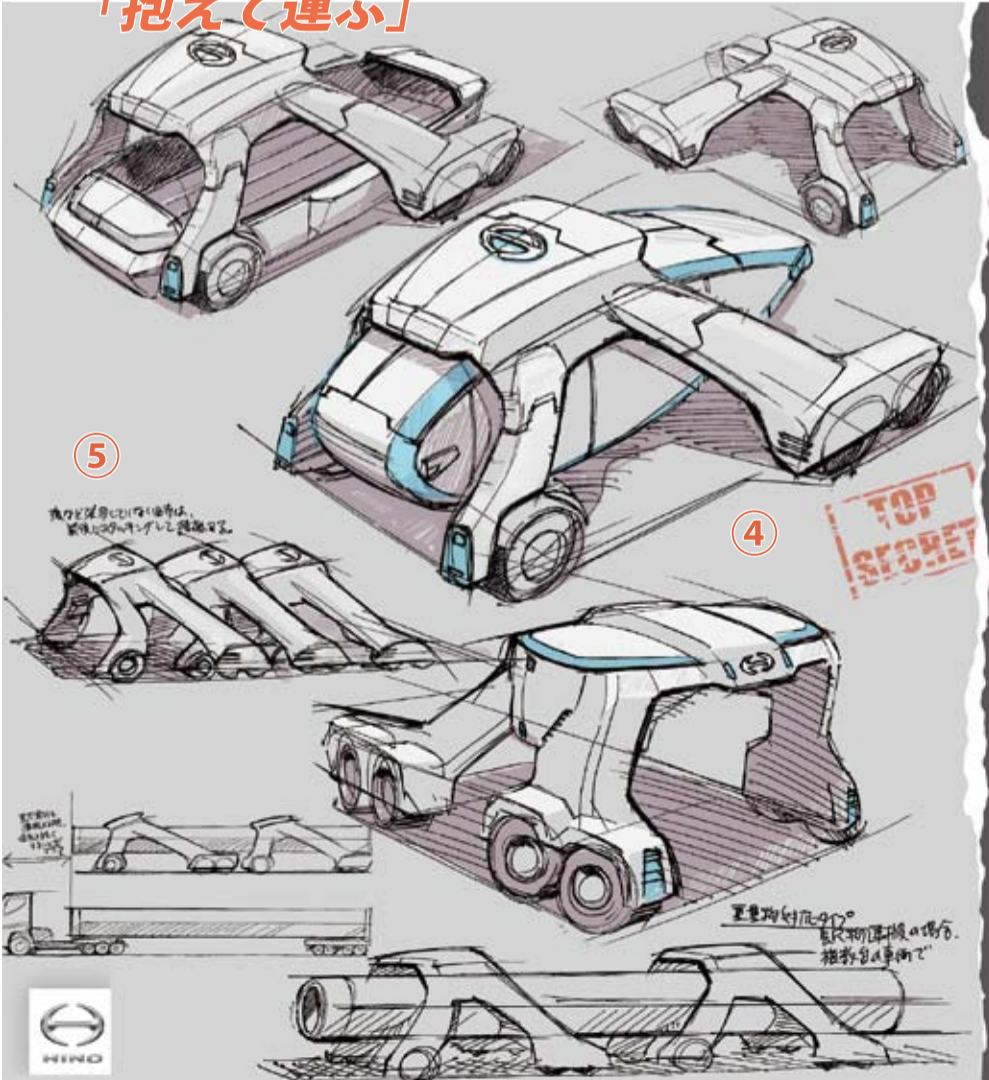


デザイン部デザイン開発室
グループ長
田中 大介 さん



デザイン部デザイン開発室
グループ長
花澤 淳之 さん

「抱えて運ぶ」



⑤

④

イラストの拡大版は日建連ホームページ (<http://www.nikkenren.com/>) に掲載されていますので是非ご覧ください。・・・建設業が面白くなるのはこれからのようです。